



# 練馬ど根性大根 2世は 順調に育っています！

と き 12月21日(土)収穫

と ころ 西大泉市民農園(西大泉 4-3-8)

21日、西大泉市民農園で、「練馬ど根性大根」2世の収穫が行われた。これは、昨年12月、練馬中央陸橋下（環状八号線沿い）の道路脇のアスファルトの隙間から生えていた「ど根性大根」から種を採り、育てたもの。区が開催している「農作業ヘルパー・援農ボランティアフォローアップ研修」受講生の区民らが育成した。

この日、収穫を行った男性は「一つ一つが大きく、収穫する時も手応えがあった。さすがは、『練馬ど根性大根』の2世。立派に成長して、『ど根性』を見せている」と、笑いながら話していた。

区では「大根で名をはせる練馬に、冬の寒空やアスファルトにも負けず、力強い生命力を見せていた『ど根性大根』が生えていたのも、何かの縁。貴重な種を今後も3世、4世と育てていきたいと、考えている。



【「練馬ど根性大根」2世】



【収穫の様子】

## 【「練馬ど根性大根」とは】

平成24年12月、練馬中央陸橋下（環状八号線沿い）の道路脇のアスファルトの隙間から、大根が生えていたのをドライブ中の区民が偶然発見し、区に情報提供した。

その後、区が道路管理者の許可を得て引き抜き、区内農家の方の協力のもと、生育を開始。当初、不明とされていた品種は青首大根の一種だということが判明した。



【「練馬ど根性大根」1世 (24年12月19日撮影)】

「練馬ど根性」大根をアスファルトの隙間から引き抜き、育成した農家の方は当時を振り返り「道路上で水や栄養もなく、寒空で吹きさらしの過酷な状況の中、年末まで枯れずにいたのは、まさに『ど根性』。私の畑に移し替えたときは、枯れかけで大丈夫かなと思ったが、予想以上に大きく立派に成長し、種を採ることができた。」と話している。

## 【「1世」の種から「2世」の収穫。そして、「3世」の生育に向けて】

平成25年4月下旬、1世が無事開花し、6月中旬に種となる実をつけた。8月、1世から約230粒の種を収穫し、そのうち約180粒を、西大泉市民農園の畑に蒔き、農作業ヘルパー・援農ボランティアフォローアップ研修の教材として「2世」を生育することになった。その後、約40本の大根の成長を確認。12月21日に約20本を収穫した。

今後は、残る約20本から種を採取し「3世」を育成し、区内で行われる大根関係の各イベント等で活用していく予定。

【問い合わせ】 区長室広聴広報課報道係 03-5984-2693